

太宰府市俳句ポスト第百二回入選者

(平成三十一年二月二十五日、令和元年五月十日)

選者 阿比留初見

入選句

人の渦巻いて流れて梅日和

(福岡市)

野口 孝子

白梅の楚々と紅梅凜々と

(福岡市)

山口 裕子

うららかや墨入れあらた旅人歌碑

(北九州市)

元田 品子

切れ切れの水城遺構や春惜む

(福岡市)

梶原 敏子

雨になほなんじゃもんじゃの白まぶし

(大野城市)

北 嘉与子

花萼踏まじ水城の歴史聞く

(太宰府市)

土師 累徳

母子像に祈りゐる間の春寒し

(福岡市)

岡村 礼子

梅が香に父の命日ふと思ふ

(筑紫野市)

山本 耕一

うららかや親子くつろぐ茶屋床几

(福津市)

柴田 佳津子

卒寿なほまだある闘志風光る

(糸島市)

川上 清子

神官の祝詞ゆつたり梅香る

(福岡市)

白井 道義

都府楼址卒業証書持ち集ふ

(太宰府市)

中島 祝乃

鈴の音につづく神鼓や朝桜

(福岡市)

河野 京子

万葉のロマンを尋ねあたたかし

(糸島市)

藤原 泰子

幼子の笑顔包んで舞ふ梅花

(福岡市)

享保 萌愛

都府楼の広さをあそぶ揚雲雀

(宗像市)

掛林 朋希

太宰府で新たな一歩梅に立つ

(福岡市)

渡辺 凜々子 十四才

だざいふはとてにもにぎやかうめさいて

(糟屋郡)

中村 成美 十二才

うめのはなあかくそまるよはるちかく

(大野城市)

中原 幸太郎 十才

うめがさくうめがえもちのてんまんぐう

(北九州市)

みやはら かな 六才